

狂戀夜叉

(前後編十六卷)

帝キネ

原作並脚色者 楠 善苦勞
監督者 高木 英雄
撮影者 鍋本榮一 藤間林太郎
主演者 實川延松

歌川八重子 第二百八十八號

紹介 一人の毒婦に三人の武士をからませてゆく脚色振り前篇では一寸面白く見たが、後篇に至るさ一向感心出来なくなつて了つた。高木英雄氏の監督は新進丈に覇氣があるし伏線などは上手に扱つて居るのには頼もしい。總體の出来はやはり前篇の方が優れて居る。後篇は稍々亂闘に捉はれて居る型であつた。歌川八重子嬢のお艶は美しいけれども如何にも毒婦らしくない。最後の御高祖頭布になつても妻味が足りなかつた。藤間林太郎氏の兵庫之助は一寸無粋に見えるが、役がそうした役だから得をして居る。後篇に於る亂闘は島達ひが眼に見えて困る。實川延松氏の左金吾は新派の連中の中へ入るささすがに光つて見える。木島要之助氏の新十郎は三人の内一番見足りるのは止むを得ない。松葉笑子嬢の妹は始終観客の同情を引く役だから出来は少し事はないが受けて居る。小島洋々氏の大敵や濱田格氏の三枚目は時代劇だけ何んさなく御愛嬌である。撮影は帝キネとしては上の部に屬する出来榮えである。山本 綠葉
興行價値 帝キネ現代劇のスターが主演した時代劇だけ何處かに違つた味を持つて居る。後篇は殆んど亂闘計りさ云つても好い位、いろいろ亂闘が織り込まれて居るから一般には相當受ける榮實を持つて居る。(二月廿九日前篇三
月七日後篇 大阪芦邊劇場 神戸相生座 京都八千代館封切)